



被覆金属管・合成樹脂管・ケーブルの防火区画貫通部耐火措置部材

耐火キャップC 取扱説明書

国土交通大臣認定

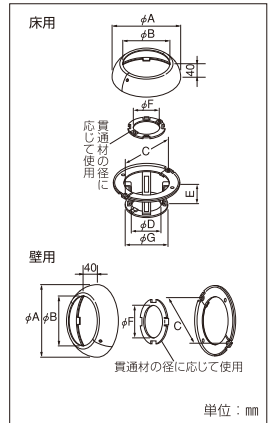
PS060FL-9369 (床)
PS060WL-9370 (壁)



- * 認定書をご熟読の上で、施工してください。
- * 耐火キャップCには、床用、壁用があります。施工方法やセット明細などが若干異なりますのでお間違えなきようご注意ください。
- * 区画貫通部に配管などが動かないようにしっかりと固定してください。特に縦引きの冷媒配管の場合は、配管長の中央部に「パイプロック」K」を使用して配管を支持してください。不十分な場合はすでに隙間が生じたり落下する恐れがあり、耐火性能が発揮できません。
- * 屋外で使用する際は、紫外線、雨水などが当たらない様に処置を施してください。
- * 本体の施工並びにシール材充填の際は、手袋などを着用してください。
- * 貫通する壁がコンクリート造以外の場合は、壁の素材（ALC、耐火ボードなど）専用のφ5タッピングビスで完全に固定してください。又、下穴は壁の素材に適合したφ5タッピングビス用下穴で設けてください。
- * 区画の壁の材質によっては、パテに含まれる油分が染み出す恐れがありますのでご注意ください。
- * 架橋ポリエチレン管にご使用の場合は、管と熱膨張性耐熱シールIPが直接触れないように被覆してください。
- * ポリレン管で温水を連続使用される場合は、使用条件によって管の性能に影響をおよぼす場合がありますので、管と熱膨張性耐熱シールIPが直接触れないように被覆していただくか、弊社までお問合せください。



<図I> 寸法図



<表1> 耐火キャップC寸法表

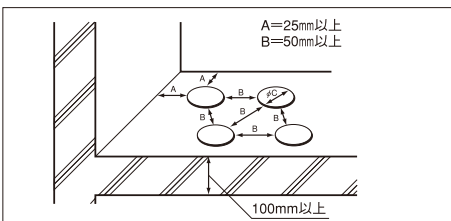
種別	型番	適合ボイド管 呼び径	貫通穴 仕上がり径(mm)	寸法 (mm)								セットパテ量	
				φA	φB	C	φD	E	φF	φG	0.5L	0.3L	
床用	IRC-75CY	75	82	131	82	114	61	20	45	75	1	0	
	IRC-100CY	100	110	156	107	139	81	20	65	98	0	2	
	IRC-125CY	125	135	182	133	165	101	20	85	123	1	1	
	IRC-150CY	150	160	207	158	190	123	20	105	148	2	0	
壁用	IRC-75CK	75	82	131	82	114	—	—	45	—	1	1	
	IRC-100CK	100	110	156	107	139	—	—	65	—	2	0	
	IRC-125CK	125	135	182	133	165	—	—	85	—	0	4	
	IRC-150CK	150	160	207	158	190	—	—	105	—	3	0	

1 国土交通大臣認定適用範囲

項目	施工	床施工	壁施工	
耐火構造の壁・床の例				
		耐火構造の床	耐火構造の壁	
用途及び使用可能範囲	金属管(鋼管、鋳管、ステンレス鋼管)及びそれらに被覆したもの	管外径 (mm)	53, 98	
		保護材厚 (mm)	20	
	ポリエチレン管、架橋ポリエチレン管、ポリブテン管、及びそれらに被覆したもの	管外径 (mm)	44, 48	
		保護材厚 (mm)	20	
	硬質強化ビニル管、金属強化架橋ポリエチレン管、及びそれらに被覆したもの	管外径 (mm)	44	
		保護材厚 (mm)	20	
	可とう強化ビニル管、及びそれらに被覆したもの	管外径 (mm)	—	34.1
		保護材厚 (mm)	—	6
	さや管	管外径 (mm)	—	42
	内管 ポリエチレン管 架橋ポリエチレン管 ポリブテン管	管外径 (mm)	—	34
ケーブル		CV(CVT)800V 60mm×3C ^{※1}	CV(CVT)800V 100mm×3C ^{※2}	
占積率		57%以下 (上記配管、ケーブル漏液の場合を含む)		

2. 防火区画貫通部の設営

<図II> 貫通穴間ピッチ解説図



<図II>及び<表1>を参考に、ボイド管等で貫通穴を設けます。

- * 耐火キャップCは厚さ100mm以上の壁もしくは床に適用されます。
- * 耐火キャップCの蓋は、左右からスライドさせて組み付ける構造の為、作業スペースとして5〜10mm程度の余裕が必要です。
- * 他の貫通穴が隣接する場合や、周囲に障害物がある場合は、特にご注意ください。
- * φCについては、商品毎の貫通穴仕上り径をご参照ください。

3. 床施工手順

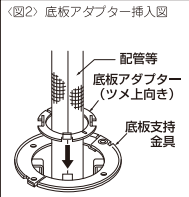
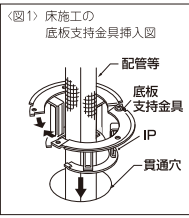
1. 底板支持金具の取り付け

〈図1〉のように、底板支持金具を組み付けて挿入してください。

貫通材が底板アダプターの内径より小さい場合は、熱膨張性耐熱シールIPの脱落防止のため、底板アダプターを挿入してください。

(〈図2〉参照)

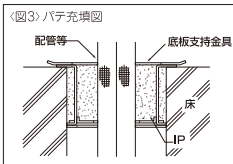
※あらかじめ底板支持金具の足の外側に熱膨張性耐熱シールIPを充填しておく、後のパテ埋め作業が容易になります。



2. パテ埋め

(熱膨張性耐熱シールIPの充填)

〈図3〉のように、付属の熱膨張性耐熱シールIPを充填してください。

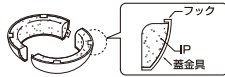


3. 蓋金具のパテ盛り

耐火キャップCの蓋金具に、あらかじめ熱膨張性耐熱シールIPを〈図4〉のように充填しておきます。

※蓋金具を底板支持金具に取り付けるフックの周りには、熱膨張性耐熱シールIPを盛らないように施工してください。(〈図4〉断面図参照)。

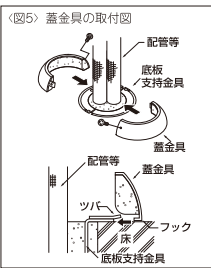
〈図4〉蓋金具へのパテ盛り解説図



4. 蓋金具の取り付け

熱膨張性耐熱シールIPをあらかじめ充填しておいた蓋金具を、底板支持金具のツバに、蓋金具のフックが掛かるように左右からはさみ込んで取り付け、ビスで固定します。(〈図5〉参照)

※底板支持金具のヒンジ部には、蓋金具のフックが掛けられません。ヒンジ部を避けて取り付けてください。

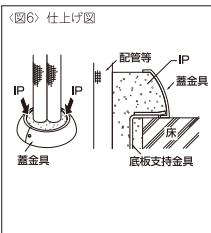


5. 仕上げ

蓋金具と貫通材のすき間が埋まるように熱膨張性耐熱シールIPを充填して完成です。(〈図6〉参照)

※基本的に、耐火キャップCに同梱されている熱膨張性耐熱シールIPは、全て充填してください。

※床下からも仕上げれば、より確実です。



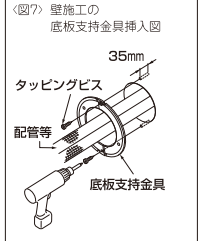
4. 壁施工手順

1. 底板支持金具の取り付け

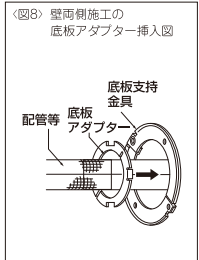
〈図7〉のように、底板支持金具を組み付けて、必ず付属のタッピングビスなどでビス穴4ヶ所の内対角2ヶ所を固定してください。

貫通材が底板アダプターの内径より小さい場合は、熱膨張性耐熱シールIPの脱落防止のため、底板アダプターを挿入してください。(〈図8〉参照)。

※底板アダプターのツメの向きは、開口内側向きになります。※ビス穴は4ヶ所ありますが、対角2ヶ所留めで十分です。ただし、強度の弱い壁に取付ける場合は、4ヶ所留めてください。



※アンカーなどで固定する場合は、底板支持金具の内径(5.5mm)に適合するものをお使いください。



2. 蓋金具のパテ盛り

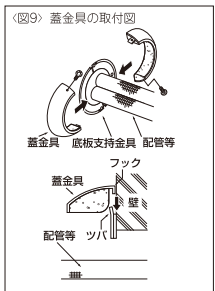
耐火キャップCの蓋金具に、あらかじめ熱膨張性耐熱シールIPを〈図4〉のように充填しておきます。

※蓋金具を底板支持金具に取り付けるフックの周りには、熱膨張性耐熱シールIPを盛らないように施工してください。(〈図4〉断面図参照)。

3. 蓋金具の取り付け

熱膨張性耐熱シールIPをあらかじめ充填しておいた蓋金具を、底板支持金具のツバに、蓋金具のフックが掛かるように左右からはさみ込んで取り付け、ビスで固定します。(〈図9〉参照)。

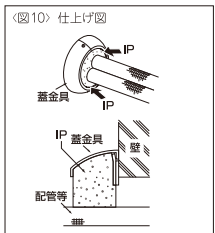
※底板支持金具のヒンジ部には、蓋金具のフックが掛けられません。ヒンジ部を避けて取り付けてください。



4. 仕上げ

蓋金具と貫通材のすき間が埋まるように熱膨張性耐熱シールIPを充填して完成です。反対側も同様に施工して完成です。

※基本的に、耐火キャップCに同梱されている熱膨張性耐熱シールIPは、全て充填してください。



因幡電工業部
因幡電機産業株式会社

(最新情報は下記ウェブサイトをご覧ください)

<http://www.INABA-DENKO.com/>

本 部 〒108-0075 東京都港区港南4-1-8 リバーズ品川(11F)

札幌営業所 (011)209-1784 (代)	神奈川1・2課 (045)470-1780 (代)	広島営業所 (082)545-1132 (代)	東京推進課 (03)5783-1721 (代)
仙台営業所 (022)293-1785 (代)	名古屋営業所 (052)541-1780 (代)	九州1・2課 (092)525-1782 (代)	京屋推進課 (052)541-1780 (代)
仙台営業所 (048)642-1783 (代)	名古屋営業所 (076)262-1783 (代)	大田営業所 (06)4391-1713 (代)	大阪推進課 (06)4391-1941 (代)
仙台営業所 (03)5783-1723 (代)	近畿1課 (06)4391-1940 (代)	大田営業所 (03)5783-1722 (代)	福岡推進課 (092)525-1782 (代)
仙台営業所 (03)5783-1724 (代)	近畿2課 (06)4391-1732 (代)	大田営業所 (022)293-1785 (代)	海外販売課 (06)4391-1920 (代)